

平成 30 年度地域づくり支援セミナー 第 1 回講座録

日 時：平成 30 年 11 月 13 日（火） 19:00～21:00

会 場：愛媛大学 社会連携推進機構 2 階 研修室

参加者：受講生 17 名（欠席 3 名）

松山市 市民参画まちづくり課 岡田課長

スタッフ 愛媛大学社会連携支援部社会連携課 田中

松山市市民参画まちづくり課 網矢、村上、奥、丹下

1. 開講式

○市民参画まちづくり課 岡田課長

このセミナーは、愛媛大学と松山市が共同で実施しており、今年で 15 年目を迎える。地域で活躍されている方や地域づくりに関心がある方に、地域コミュニティの基礎的な知識や、地域課題の解決方法について学んでいただくために開催している。

今年度のテーマは「高齢者のための地域づくり」で、みなさんご存知のように、日本では少子高齢化が進んでおり、松山市も例外ではなく、2025 年には人口の 30.5%が 65 歳以上の高齢者となる見込みである。行政も「まつイチ体操」など様々な取り組みを進めているところだが、行政だけの力ではどうしても限界がある。高齢者の方が住み慣れた地域でいきいきと暮らしていくためには、その地域で暮らす住民のみなさんの力が必要となる。

今回のセミナーでは、松山市が進めている「地域におけるまちづくり」をご紹介するほか、先進地域の三津浜地区や、愛媛大学、松山市の取り組みをご紹介し、受講者のみなさんと一緒に考えるワークショップや、最終日には、実際に三津浜地区で取り組まれている「高齢者のつどい」を体験していただくなど、座学だけの基礎的な学習だけでなく、実践的なことも学べるような内容にしている。この 4 日間で、地域のまちづくりの“気づき”や“ノウハウ”を持ち帰っていただきたい。



2. 講義① 松山市の「地域におけるまちづくり」

○市民参画まちづくり課 奥

- ・地域におけるまちづくり＝「生活の基盤や歴史・文化を共有する、概ね公民館本館の区域（市内 41 地区）において、住民が互いの合意形成を図り、住んでいる地域の暮らしやすさの向上や地域活力の増進等を目的として行う活動」
- ・住民ニーズの多様化・複雑化、行政サービスの低下、コミュニティの希薄化などから、住民主体のまちづくりが求められるようになった。
- ・地域にある団体が課題や魅力を共有し、相談、協力する仕組みとして「まちづくり協議会」の設立を支援している。
- ・協議会の方向性を示す道標として、住民アンケートやまち歩き、ワークショップなどを実施しながら「まちづくり計画」を作成する。
- ・現時点での設立状況（26 協議会と 2 準備会。地区数で言うと 30 地区）



- ・各協議会の取組事例や課題、松山市の支援策や課題の紹介。

3. 講義② 「先進地区（三津浜地区まちづくり協議会）の取り組み」

○三津浜地区まちづくり協議会 福祉部 部長 石崎 智行

- ・三津浜は江戸時代に松山藩の御船手組（船奉行所）が置かれた港町で、漁業や商業で栄えた町。
- ・三津浜はたくさん観光客が良く来ているイメージだが、実際に住んでいる住民はどんどん減っている。平成20年は5,600人、2,500世帯だったが、その10年後の今年には4,800人、2,200世帯と減っており、市全体で人口は11番目に低い。また、高齢化率も高く、三津浜は35.7%で、市全体で11番目に高く、地元は深刻な高齢化の課題に直面している。
- ・三津浜まち協は平成22年5月に設立。今年で8年目になり、福祉部、広報部、安全安心部、まちおこし部がある。
- ・主な事業として、広報部は盆踊り大会、安全安心部は防犯カメラの設置、まちおこし部は「三津浜検定」、福祉部は「高齢者のつどい」などの事業に取り組んでいる。
- ・「高齢者のつどい」は、まち協で作ったまちづくり計画に基づいた、高齢者が交流する事業。高齢化が進んでおり、「家から出ない」「出る機会が少ない」高齢者も増えているため、外出してもらうためのきっかけづくりにしてもらおうと始めた。
- ・地区社会福祉協議会、民生委員、母子会、地域包括支援センターのほか、松山市役所の「まち協サポート隊」の職員の人にも手伝っていただいている。
- ・開始した平成25年から今年までの実績は、年間4回開催し、松山大学の甲斐先生と協力しながら行った。最初は、高齢クラブなどに参加を呼びかけたため、参加員数は40名を超えていたが、その後は、20数名と参加者が減少した。内容は、健康体操や講話、ゲーム、茶話会などを行った。
- ・平成26年度は前年度より少しずつ増えた。1年かけて、少しずつ評判が広まっていったと思う。
- ・27年度からはコツをつかめた。次回開催メニューを福祉部で話し合い、健康体操や様々なテーマの講話の実施、ゲーム、時にはゲストを呼び、落語やマジックショー、大道芸などを披露していただいた。
- ・健康体操は、元看護師の女性や地域包括支援センターの方がやってくれている。健康体操なので、ゆっくりストレッチするだけで、激しい動きみたいなものはしていない。
- ・ゲームは基本的にグループ対抗で、競ってもらっている。競わないと必死にならないし、盛り上がらないため。優勝チームには粗品を渡している。
- ・自分たちでステージパフォーマンスを行ったときもあり、「歌謡オンステージ」や「みつはまショートコント」などを行った。
- ・苦労したこと…高齢者のつどいの開催に至るまでに、部員の確保や具体的な取り組みの案がなかなか出てこず「高齢者のつどい」の提案がでるまで時間がかかった。
- ・良かったこと…参加者が増え、楽しみにしてくれている。地域包括支援センターと連携することで内容が充実し、事業に安心感がでてきた。
- ・課題…参加者が固定化されてきている。部員も固定化している。高齢者以外の事業も行わなければならない。



- ・改善策…内容の見直しやニーズの把握を行う。部員の固定化については、粘り強く個別に勧誘する。
高齢者以外の事業として、H28から親子対象の「ふれあい食堂」を実施している。

○地域包括支援センター三津浜 管理者 井手 理恵

- ・地域包括支援センターとは、高齢者に関する医療や介護、福祉の身近な相談窓口として、市町村へ設置されている公的な相談機関。
- ・地域包括支援センターは松山市に10カ所あり、住んでいる地区によって管轄が決まっている。



(地域包括支援センター三津浜は宮前・三津浜・高浜・興居島地区を担当)

- ・「最近、足腰が痛くて買い物に行くことが辛くて困っている」「親の身体が弱ってきたため、介護保険のサービスを希望する」など、高齢者に関する様々なお困りごとの相談を行っている。
- ・超高齢社会の時代が到来しており、2050年には、高齢者1人を若い世代1人で支える時代になっている。
- ・地域包括支援センターは、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して生活が継続できる仕組みづくり、地域づくりを行う使命がある。
- ・相談業務のほかに三津浜地区まちづくり協議会と連携し、「高齢者のつどい」にも協力している。
- ・まちづくり協議会と連携することが地域と連携することに繋がると考えている。

3. アンケート記入・終了

次回について

日時：11月20日（火）19:00～21:00

内容：○「愛媛大学の取り組み」（愛媛大学 牛山真貴子教授）

○「松山市の取り組み」（松山市介護保険課）